

1. 信楽、雲井、小原、朝宮、多羅尾地域

(1) まとめ

- 役員の担い手不足や清掃活動の負担増が課題との意見が多かった。
- 区・自治会の体制の見直しや、行事の精査に取り組みたいとの主体的な意見もあった。
- 若年層の流出が多く、住みつづけたいと思えるような行政施策への期待が多かった。



(2) 個別意見（抜粋）

- ①少子高齢化が進み、道路河川清掃の負担が増加している。できる範囲は地域で担うが、できない箇所は市で実施してほしい。
- ②人口減による役員の担い手不足が顕著。区役員の役職も多い。本当に必要な役職に絞り込むなど、見直しが必要な時期を迎えている。
- ③自治振興会、区・自治会の体制見直しが必要である。
- ④本来なら支えられなければならない年齢の住民が、いつまでも支える側であり続けることに限界を感じる。市がリーダーシップをとって、自治振興会、区・自治会の枠組みを決めたほうがよいのではないか。
- ⑤程よく距離感のある近所づきあいが必要。地域とのつながりを求めない人もいることを理解しなければならない。
- ⑥将来の人口減は避けることはできない。残された者が安心して暮らせるようコミュニケーションの場づくりを大切にしたい。
- ⑦グランドデザインのように30年先の将来について考えることは必要。一方で、目の前にある課題を解決することも重要であり、日常を守るための取り組みを重視すべきではないか。
- ⑧自治振興会と区・自治会の組織が二重となっていないか、整理が必要。
- ⑨地域振興のための集客施設が必要。地域内での仕事が増えれば、若者も地域に残るのではないか。
- ⑩空き家としての認定条件（基準）が厳しいのではないか。柔軟な制度改正を求める。